

# 若事研広報

No.215

編集・発行

岩手県公立小中学校

事務職員研究協議会

総務部

令和4年11月30日

## 第3回岩手県公立小中学校事務全体研修会

期日：令和4年9月2日（金）

会場：いわて県民情報交流センター アイーナ

9月2日（金）、いわて県民情報交流センターアイーナにて、第3回岩手県公立小中学校事務全体研修会を開催しました。当初は参集形式を予定しておりましたが、感染症拡大状況を鑑みリアルタイム配信での開催となりました。当日の参加者は200人超と、多くの会員の皆様にご参加いただきました。第3回目の全体研修会となる今回は、盛岡大学文学部児童教育学科 福島正行教授より「カリキュラム・マネジメント」を演題とし、ご講演をいただきました。



なぜカリキュラム・マネジメントが必要なのか、学校組織の中で事務職員がどういった働きを求められているのかを、標準的職務として示された内容やICT機器の導入といった内容も踏まえてお話し頂きました。福島先生には令和元年度開催の第49回岩手県公立小中学校事務研究大会の全体研究会でもカリキュラム・マネジメントについて解説していただいたところです。GIGAスクール構想など学校を取り巻く状況が変わっている中で、改めてカリキュラム・マネジメントの重要性を学ぶことで、学校事務職員として資質向上への意識が高められた研修となりました。

遠野市立青笹小学校・高屋敷建斗さんから、司会を務めた感想を頂きました。

「今まで司会という役割を経験したことがなかったので緊張しましたが、やり遂げた後は大きな達成感を味わうことができました。そして、研修会等を運営している先輩方の姿を拝見し、新たな視点を獲得することができたのも自分の大きな財産となりました。」

高屋敷さん、ありがとうございました！





## 受講者の感想



花巻支部では、石鳥谷総合支所にサテライト会場を設け、感染対策を講じながら全体研修会の動画を視聴しました。所属校で視聴した方等を除き19名が集まりました。

盛岡大学福島先生からは、カリキュラム・マネジメントの定義およびカリキュラム・マネジメント・モデルが示され、学校事務職員の立ち位置や課題解決を通して現状と目標（あるべき姿）の差（ギャップ）をいかに解消していくか等、私たち学校事務職員にカリキュラム・マネジメントへの参画を促す大きな期待が感じられる内容でした。

教員や他職種との「協働」においては、職務遂行能力(テクニカル・スキル)だけでなく、人間関係形成能力(ヒューマン・スキル)が必要とのお話には頷くところがありました。テクニカル・スキルについては経験年数によりカバーすることが可能ですが、ヒューマン・スキルについては自分で意識的に努力しなければ独りよがりになってしまうことが懸念されます。学校事務職員は「一人職」ですが、だからこそ「協働」と「共同」をキーワードに、誰とでもつながれることを強みに変え、教員とは異なった視点で的確にアドバイスできる存在でありたいと再確認した講演でした。

＜花巻市立石鳥谷中学校 佐々木 圭子さんより＞

今回の講演では、事務職員が「カリキュラム・マネジメント」にどのように関わればよいのか、文科省の通知や他県の実践例をもとにした講演を聞くことができ、大変勉強になりました。

通常の業務に加えて、マネジメントへの参画、ICT教育支援、教員との協働など担っていくべき役割が増えて、業務の高度化が求められているということが分かりました。「標準的な職務」別表2にある業務に自分がどのくらい関わっているか考えてみましたが、今の自分の力量ではなかなか難しいことも多いので、周りの事務職員の方々と情報交換をして、他校の事務職員がどのくらい「カリキュラム・マネジメント」に関わっているか学んでいければいいなと思います。

今後は講演の内容を活かして、自分のやっていることが少しでも学校や子どもたちのためになっているかを考えながら、日常業務に取り組んでいきたいです。

＜一関市立興田小学校 佐藤 美加さんより＞



学校事務職員が一人職であることは弱みが多いと思っていましたが、教員と管理職をつなぐミドルとしての視点を生かすことができれば、相乗効果で組織として新しい効果が生まれていくと知り、学校事務職員は学校経営に重要な役割を担っていると改めて感じました。

事務職員としてカリキュラム・マネジメントに参画していき、業務の高度化に貢献できるよう行動していきたいと思いました。参画していくにあたって、まずは自身のセルフマネジメント能力を十分に養い、教員との協働や業務改善に取り組みながら、少しずつ企画段階へ従事していきたいと思っています。

＜一関市立猿沢小学校 小泉 純弥さんより＞

## 第24回東北地区公立小中学校事務研究大会福島大会

期日：令和4年10月6日(木)・7日(金)

会場：郡山ユラックス熱海・ほっとあたま・ホテル華の湯

10月6日・7日に福島県郡山市にて、第24回東北地区公立小中学校事務研究大会福島大会が開催されました。前回の秋田大会はweb開催となったため、参集開催は実に4年ぶりになります。また、初となるハイブリッド方式が採用され、大会参加申込者に限り当日の映像を視聴できる画期的な大会でもありました。

1日目午前には「文部科学行政をめぐる最近の情勢について」と題し行政説明があり、ICTの活用や学校における働き方改革など、近年の課題に対する施策を改めて確認できました。同日午後には分科会発表がありました。一部の分科会発表については参加者より感想を頂いておりますので、ぜひお読みください。

閉会式では、本県で開催される次回大会の実行委員長として、本研究協議会会長から「スマートでありながら皆さまの心に残る大会にしたい」とあいさつがありました。開催は2年後です。皆様のご協力をぜひお願いいたします。



### 参加者の感想



第3分科会のいわき支部は、「学校力を高める学校事務を目指して～つなげ！つなぐれ！！縦横無尽に～」のテーマのもと、大きく3部に分かれた発表がありました。以下、簡単に発表項目を記述します。

- ・備品整理（教員との連携、管理ソフトの開発）
- ・施設整備管理（管理職と連携し、引継ぎに向け施設に関する手引き作成）
- ・事務職員からの情報発信（学校の基本情報を記述した保護者向け手引き作成 学校 HP の活用）
- ・震災の教訓の継承とリスクマネジメント
- ・世代交代に向けて、事務研への意識を調査

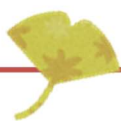
身近なものから大きな「つながり」まで、たくさんの成果を聞くことができ、大いに刺激を受けました。また、指導助言者の藤原文雄様（国立政策研究所初等中等教育研究部長）の「子どものために何ができるかを考え続け、学校を語れる学校事務職員になってほしい」ということばが印象に残りました。

<一関市立巖美小学校 伊藤 文さんより>

分科会は第4分科会（福島支部発表）に参加しました。福島支部研究会は「つなぐ」をテーマとして、課題解決への3つの取り組みについて発表しました。若手職員の支援体制の強化という課題にはネットワーク上で随時情報交換できる場を設置し、研究活動の継承には活動収録冊子と「研究成果活用チェックリスト」の作成・配布を行い、備品の整理方法の統一化には市町村教委と会議を開催するというように、それぞれに適したかたちで「つながり」の場をつくって改善を試みるという内容でした。それぞれの「つながり」方が持つ強みから期待した効果を得られたものの、弱みからは課題も発見され、その実践的活動を興味深く拝聴しました。

人や機関が「つながる」方法には会議、文書、電話、メール、共有フォルダ、アプリケーションなど様々な選択肢があり多様化しています。また、コロナ禍でオンライン会議が主流になるなど、社会状況にあった「つながり」の在り方が求められています。福島支部研究会が新たな「つながり」を模索したように、今、「つながる」手法を見直すときなのかもしれないと思いました。その際、それぞれのツールが持つメリット・デメリットをよく知り適切に活用することが大切であるということは今回の学びです。

<釜石市立甲子中学校 千葉 衣央さんより>



第5分科会【個人発表】に参加しました。福島では共同連携グループの学校間の距離が遠く参集するのが難しいという弱みを強みに変え、ICT機器を活用したりリモート研修を行っていました。業務が滞りそうなタイミングで研修を行ったり、次回に向けて予習・準備したりすることができ魅力的だと感じました。秋田では市教育委員会と協力して私費会計のソフト・マニュアルを作成し、市内で統一を図る取り組みを行っていました。その他に就学援助費や補助金申請に関するマニュアルも作成しており、新採用職員や異動してきた職員にとってもありがたいのではないかと思います。

今回東北事務研に初めて参加して、他県の取り組みや実践例に触れることができ新たな発見や気づきがありました。今後取り組んでみたいと思う内容が多くあり、とても勉強になりましたし良い経験をすることができました。まずは自分がやれることから取り組み、より良い業務ができるよう努めていきたいです。

<北上市立和賀西中学校 後藤 麻衣さんより>

## 編集後記

今回も寄稿いただいた7名の方をはじめ、会員の皆様のご協力を頂き、無事に発行することができました。誠にありがとうございます。今年度も早いもので、残り半分を切りました。次号のNo.216で今年度の岩事研広報の発行は最後となります。今号も最後までお読みいただき、ありがとうございました。